

ベトナム最新情報

2018年7月27日（金）

— 通巻4360号 —

目次

○ 政治・経済

- = ベトナムで使用されている医療機器、総額の90%以上は輸入品
- = 加速する日本向けの鶏肉輸出
- = 外資企業のサプライチェーン、“締め出し”食らうベトナム企業

○ 日系企業情報

- = キューピーベトナム、『Cay Thi』シリーズの新商品開発に協力

○ 社会・トレンド

- = 『第16回ホイアン・日本文化交流』で世界遺産の街に19の伝統村が集う

○ 一口ニュース（1件）

- 為替・証券市場動向
- 入札情報

○ 事件・出来事

- = SNSで多くのベトナム中年女性を騙したナイジェリア人に禁固刑

○ コラム

- = 営業マンの宿命、苛酷な飲食接待（後編）

******* 政治・経済 *********ベトナムで使用されている医療機器、総額の90%以上は輸入品**

ホーチミン市で行われる第18回国際医薬品展示会『Vietnam Medi-Pharm Expo』を紹介する記者会見で、ホーチミン市医療機器協会の Hua Phu Doan 副会長は、ベトナムで使用されている医療機器は、総額の90%以上が輸入された海外の医療機器だと述べた。

ベトナムにおける医療機器の売上は、2016年に9億5,000万ドル、2017年は11億ドルに達している。

ベトナムに医療機器を輸出する主な国は日本、ドイツ、アメリカ、中国、シンガポールだ。これらの医療機器は主に画像診断設備(X線、超音波、MRI、CTスキャン)、手術室、患者モニタリング、消毒、内視鏡、検査、医療廃棄物処理などの設備に集中している。

ベトナムは現在、保健省からライセンスを受けた医療機器メーカーが50社ほどしかなく、その殆どは単純な製品を生産しており、市場のニーズに対応できていない。

8月2日～4日まで7区の Sai Gon 会議展示センター(SECC)で開催される医療設備展示会には、国内外の医療機器メーカーが350社以上参加する。

(Sai Gon Giai Phong 7月26日,P.2)

加速する日本向けの鶏肉輸出

日本からの鶏肉需要に応えるべくベトナムの加工会社はフル稼働した上に、新工場の建設地を探している。日本へ初めて輸出したのは2017年9月、日本向けの潜在力は非常に大きい。

ベトナムは現在、今年末の輸出実現に向けて、シンガポールと香港へのアプローチも同時に進めている。

■半年で新しいラインを増設

日本向けに初めて鶏肉を輸出してからわずか半年後に、Dong Nai 省に拠点を置く Koyu & Unitek 社は、新たに2つのラインに投資した。

Khuu Nhon Hieu 社長によると、2017年に生産ラインが月100トンのフル稼働に達した。2つのラインを増設したことで、9月までに月200トン、年内に350トンに生産量は引き上げたい考えだという。これは、食肉加工前の生きた鶏の状態ですら1,100トンに相当する。

試験輸出を経て日本の顧客から信用を獲得し、ベトナムへの注文は増えている。Hieu氏によると、同社は向こう5年の鶏肉の輸出需要に備えて、新工場の建設地を探している。「日本側の親会社によると、向こう5年でベトナムでの生産量を月1,000トンまで増やすことを計画している」と Hieu氏は言う。

■日本向けの養鶏はベトナムでただひとつ

日本に最初の鶏肉を輸出するまでに、各社は準備に3年近くの時間をかけた。現時点では Nguyen Minh Kha 氏が所有する Dong Nai 省の養鶏場がベトナムでは唯一、日本向けの輸出基準をクリアしている。

ベトナムにおける養鶏のチャンスは大きい。しかし、Koyu&Unitek 社との提携に加わるために養鶏場は、残留抗生物質や農薬、重金属、使用を禁止される物質、インフルエンザやサルモネラ菌、大腸菌の管理対策など、様々な基準を満たさなければならない。

Hieu 氏によると、現在ベトナムの養鶏レベルは地域諸国と同等の水準になりつつあり、同社では現在、香港とシンガポール向けの輸出に向けた商談も進めている。「すべてが順調に進めば、年末にもこれら2市場に輸出できる」と Hieu 氏は話す。

CP Vietnam も、Binh Phuoc 省で輸出向け養鶏場整備を進めているところで、規模は年6,000万羽と発表している。

Montri Suwanposri 社長によると、ベトナムを「世界の台所」にする計画を実現すべく、タイよりも近代的なラインを導入する計画で、「ベトナムの養鶏価格はタイと同等水準です。我々は最新技術に投資し、既存の顧客網に向け、ベトナムの鶏肉を2019年末か2020年初めには輸出できると信じています」と Montri 氏は話している。

(Tuoi Tre 7月9日,P.7)

外資企業のサプライチェーン、“締め出し”食らうベトナム企業

30年に渡る外国直接投資誘致(FDI)を経て、国内企業は外資企業のサプライチェーンに足を踏み入れるどころか、“締め出し”を食らっているのが現状である。

現在ベトナムで Samsung Vietnam の一次供給業者となっている約200社のなかに、ベトナム企業は29社しかない。

■現地調達率80%のバイク業界にも供給は僅か

商工業省裾野産業開発センターが2017年末に行った調査によると、ベトナムには電気・電子部品メーカーが約600社あり、企業数は2011～2016年に毎年平均13.7%増えている。

しかし、電子業界では現在、生産額の77%を輸入に頼っており、電子部品の供給率は非常に低い。

国内生産できるのは機械、プラスチック、ゴム部品がほとんどで、電子業界に部品を納入している一次サプライヤーのほとんどが、100%外資または外資合弁会社というのが現状だ。

日本貿易振興機構(JETRO)ホーチミン事務所の最新調査によると、ベトナムの2017年の現地調達率は33.2%と域内の近隣各国より低く、中国では67%、タイでは57%、インドネシアでは45%と、かなり見劣りする水準に留まっている。

また、この33.2%という現地調達率のなかで、ベトナム企業が占める割合は、僅か13.1%

にしか過ぎない。

商工業省も、ベトナムには外資企業のサプライチェーンに参加する能力がある企業は、現在 300 社ほどしかないと認めており、参加できたとしても交換部品を作れる程度でしかなく、メイン製品の生産はまだできないという問題もある。

バイク部品がその典型で、ベトナムでは年間 320 万～350 万台のバイクを生産し、部品の 80%はベトナムで生産されている。しかし、それは外資企業が“丸抱え”受注しているもので、国内企業は、プラスチック部品やバッテリーなどの一部を担っているに過ぎない。

ほかにも国内企業は、繊維、履物、ファストフード、コーヒーチェーンなど様々な業界で、外資サプライチェーンから締め出されている。

■ファストフード業界からは見向きもされず

2006 年に、インテルがベトナムに世界最大のチップ工場を 10 億ドルかけて建設すると発表した際に、IT 業界のベトナム優良企業の多くは、早々にもサプライチェーンに加わることができるものと期待していた。

それから 12 年、フルブライトベトナム大学のインテルに関する研究によると、国内企業は箱や架台、小さな部品等の供給業者になっているだけでインテル向けの一次、二次供給業者になっている例はなく、ベトナムにおけるインテル向けの国内供給業者の割合は 3%を占めるだけでしかなく、残りは輸入である。

また 20 年前にベトナムは、国の工業化における重点業界として自動車を指定し、外国メーカーがベトナムに多数の工場を設立したが、現時点でベトナム自動車産業は、ミラーやガラス、シート、ワヤーハーネス、バッテリー、タイヤ・チューブ、或いはプラスチック部品といった、簡単で、技術力の低い部品しか作ることができない。

マクドナルドや KFC、ロツテリア、バーガーキングといったファストフード業界でも、ほとんどの食材が外国から輸入されている。

例えばポテトはタイから、牛肉はアメリカやオーストラリアから、紙コップでさえ、ベトナムで活動している外資企業が供給しており、100%ベトナム企業はほぼ参入できていない。ABC Bakery が、外資ファストフードチェーンの 98%にバンズを供給しているといった、非常に稀な例があるだけである。

米国発のコーヒーチェーン C.B のオーナーによると、ベトナムは世界一、二を争うコーヒー輸出国だが、同チェーンが使っているコーヒー原料、および関連材料は全てブランドの基準に従ったものを外国から輸入している。

税関総局の資料によるとベトナムは毎年、コーヒーチェーンに供給するためのコーヒー豆、挽いた状態のものなど約 6 万トン(100 万袋)を海外から輸入している。

(Thanh Nien 7 月 20 日,P.6)

******* 日系企業情報*********キューピーベトナム、『Cay Thi』シリーズの新商品開発に協力**

食品会社の Anh Kim Foods 社はホーチミン市で 7 月 21 日、栄養食品ブランド『Cay Thi』から新シリーズとして栄養強化のレトルトおかゆを発売した。

Cay Thi ブランドの全く新しいレトルトおかゆシリーズは、日本の最新技術を使った生産ラインで加工された、自然なおいしさをそのまま消費者に届ける安全な商品だ。

Anh Kim Foods の Nguyen Thi Thu 社長は、ベトナムの家庭や子供たちの知力・体力の増進に貢献するというビジョンを持って、キューピーの経験豊富な料理専門家チームと共に、虹の 7 色をイメージしたレトルトおかゆを開発したと話す。

新シリーズは 7 つの色にそれぞれ風味があり、ピンク：ポーク粥、赤：ビーフ粥、黄色：雷魚粥、青：サーモン粥、オレンジ：ウナギと大豆粥、紫：烏骨鶏と大豆粥、緑：野菜粥となっている。

全ての商品に DHA、オメガ脂肪酸、カルシウムが強化されており、メーカーが直接カルシウムを商品に入れ、体への吸収率を高めているのが特徴で、市場にはこうした商品はまだ販売されていない。これはキューピーベトナムとの協力で実現した。

これらの商品は、国際規格 ISO9001：2015～22000：2005 および HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)認証の基準を満たした、最先端の生産技術で処理・パッケージされている。

日本の包装技術である 4 層構造のアルミパウチによる保存により、太陽光、湿気、外的要因、臭いを遮断し、風味を維持し、保存期間を延ばし賞味期限は、防腐剤を使用せずに 12 カ月となっている。

この新しいタイプのレトルトおかゆは、現在の栄養食品市場にインパクトを与えることになるだろう。

(商工業省ウェブサイト 7 月 21 日,P.0)

******* 社会・トレンド*********『第 16 回ホイアン・日本文化交流』で世界遺産の街に 19 の伝統村が集う**

8 月 17 日～19 日まで、ハノイの 13 の伝統工芸村と Quang Nam 省の 6 つの伝統工芸村が、Quang Nam 省ホイアン市の An Hoi 彫刻庭園の各ブースで、工芸品の実演、展示を行う。

これは同省で行われる日本文化ウィークに行われるもので、Quang Nam 省観光促進情報センター、JICA プロジェクト、Quang Nam 省友好団体連合、ハノイ市観光貿易投資促進

センターなどが参加する『第 16 回ホイアンー日本文化交流』の中のイベントとなる。

このイベントには、陶器、箔押し、螺鈿細工、漆、石彫刻、シルク、手刺繍、竹・籐芸などの民芸を持つハノイの様々な 13 の伝統工芸村と芸術木材、金銀細工、沈香、籐・竹・葉細工、シルク、錦織分野の Quang Nam 省の工芸村が参加する。

(Phap Luat 7 月 25 日,P.3)

***** 一口ニュース *****

中国が廃棄物の輸入を中止したため、ベトナム各省市の港で現在 5,000 本の廃棄物を積載したコンテナが保管されているという。政府はそれらのコンテナが及ぼす環境汚染を懸念しており、各税関局に、密輸の疑いがあるコンテナや原産地証明書のないコンテナに対する手続きを正しく実施し、違法行為を厳しく処分するよう求めた。

(Tuoi Tre 7 月 26 日,P.7/Thoi Bao Kinh Te Viet Nam 7 月 26 日,P.11)

為替・証券市場動向	
為替相場	<p>キャッシュ 23,255 ドン/USD <国家銀行中心レート 22,649 ドン/USD> (7 月 27 日 12 時 00 分・Vietcombank)</p>
株価指数	<p>VN-Index 935.34 (△5.18/0.56%) VN 30 927.19 (△5.86/0.64%) (7 月 27 日前場終値・ホーチミン市証券取引所)</p>

******* 入札情報 *******

【施工/調達】 Soc Trang 省産婦人科・小児科医院

(Soc Trang 省人民委員会承認 2018 年 7 月 2 日付文書 1552/QD-UBND 号)

パッケージ名	パッケージ価格	資金源	請負業者 選択方法	請負業者 選択期間	契約 形式	契約実施 期間
医療ガスシステム提供・設置	199 億 2,604 万ドン	宝くじ 予算	国内公募 入札	2018 年 第 3 四半期	固定 単価式	270 日
通信システム提供・設置	120 億 9,925 万ドン					240 日

投資主：Soc Trang 省第 1 プロジェクト管理委員会
(電子入札システム 7 月 6 日)

******* 事件・出来事 *******

SNS で多くのベトナム中年女性を騙したナイジェリア人に禁固刑

ホーチミン市人民裁判所は 7 月 16 日、ナイジェリア人を主格とする詐欺グループに判決を言い渡した。

この詐欺グループのナイジェリア人は SNS を通じて、言葉巧みに多くのベトナム人中年女性と知り合い、「プレゼントを贈る」などと嘘の話を作り、公安に扮した共犯のベトナム人が、「海外からの贈り物を受け取るには、受け取り手数料が必要だ」などと連絡し、数多くの女性たちから、合計で数十億ドンもの金銭を騙し取っていた。

主犯格の 2 人のナイジェリア人は、詐欺・資産横領の罪で、Ihugba Augustine Chinonso(1986 年生) 被告には禁固 16 年、Onu Chinonso Peter(1985 年生) 被告には禁固 12 年が宣告された。

同罪で Nguyen Ngoc Tuyet(1991 年生) 被告と Le Thi Mai Phuong(1982 年生) 被告にはそれぞれ、禁固 13 年と 8 年が宣告された。

司法評議会も Tran Viet Hung 被告に、詐欺・資産横領の罪と組織の印章・文書偽造の罪で合計 20 年を求刑した。

Le Van Nhoc、Pham Truong Thanh、Nguyen Van Hai の各被告も詐欺・資産横領の罪と組織の印章・文書偽造の罪で禁固 12 年が宣告された。

被告らは奪ったお金を、被害者に対して賠償しなければならない。

(Nguoi Lao Dong 7 月 17 日,P.2)

***** コラム *****

営業マンの宿命、苛酷な飲食接待（後編）

「ビジネスはお客との人間関係が全てです。最初の潤滑油はビールであり、酒です」。
今でも多くの営業マンにとっての現実だ。

■酒豪なので社長に抜擢された男

南方肥料会社のLong副社長とVung Tau石油ガス物資供給会社のOanh社長は、「接待費に会社の制限はない」と口を揃える。

そして、直接手渡す「心づけ」の金額は、お客の重要度や商談の規模に応じて決めるという。設立から浅いOanh社長の会社の接待費でさえ、年間に10億ドン（500万円）くらいは使うという。

大企業はどうしているのだろうか？

南方飲料グループに属する会社のKhoa社長は、いつも私がお会いするたびに50万ドンの札束を1つか2つ（25万円か50万円）ポケットに忍ばせている。「客と飲みに行く時の資金は1億ドン（50万円）ですね」、普通の顔で話す。

「私の給料ですか？ 会社が私の口座に毎月1億ドン振り込んでくれますが、使う暇がありません。これだけ接待が続き毎日飲んでいきますと、時々自分は早死にするんじゃないかと思ひ、社長を辞めようかと思うことがあります」と、率直に語った。

彼が入社した時、会社には毎日定時に出勤し、早朝点呼に出るよう命じられた。

1ヵ月経った後、今度は毎日深夜まで接待に駆り出され、酒を飲むのが仕事のような毎日となった。

「毎日の早朝点呼と、毎晩深夜までの接待の両立は自分には無理なので、会社を辞めたいと考えている」と、あまりにも過酷な毎日と感じた彼は、グループの会長に直接会いに行き伝えた。

彼の営業力を見抜き自ら採用に関わった会長は驚き、会社に留まるよう説得し、特別に休める権限を彼だけに与えた。

一方、グループの他の千人の社員には相変わらず朝の点呼が待っていた。

彼にすれば辞意は本心でなく、環境を多少改善して欲しいという要望だった。

言い方の印象が悪ければ、会長は怒りだして自分の経歴に傷がつく。そうなれば退職後、同じ規模の会社や更に高い給料の会社に行くことが難しくなる。これがこの職業の苛酷なところだ。

大企業は優れた社員の採用や給与を決定する際は、常にヘッドハンティング会社を雇い徹底的に調べるといふ。

Khoa社長は、「まあ、いろんな事がありますが結局のところ、どんなに酒を飲んでも酔わないことが、私の社長としての遂行能力の目安なんです」と、ほろ苦い顔でコップ酒を煽った。

■会社を20年間支えた接待部長、肝臓癌で死亡する

Hungさんは今年35歳の独身。Mien Tay（メコンデルタ）の農薬会社で社長の右腕を勤めている。月給6,000万ドン（30万円）の高給を取る彼は、このメコン流域の女性の憧れの的だ。

しかし、Hungさんの恋人であるPさんと会ったとき、私は彼女の目に底知れぬ悲しみを感じた。

「1ヵ月は30か31日ですが、彼はお客さんと29日酒を飲みます。1日は24時間ですが、彼は毎日20時間宴席にいます。最近では、私が宴席に顔を出さないと彼に会えないほど、2人の時間がありません」と、彼女はため息をついた。

営業職となったからには、飲みたくなくても飲まなければならないのだ。そして、強い酒を飲み続けると、知らず知らずのうちにアルコール中毒になる。

Hungさんの場合、3年間の接待で酒が習慣になってしまい、休みの日でも酒を飲まないで眠れない身体になってしまったようだ。

毎日何かに理由をつけて、一緒に飲む相手を捜すアルコール依存症の人々だけではなく、酒に誘われがちの役人や管理職もアルコール中毒になる率が高い。

アルコール中毒になり妻や子供に呆れられ、友人に軽蔑されることなどは些細な事に思えるような話が、ベトナムのビジネス現場には良くある。

「1ヵ月まるまる30日仕事に駆り出され、どの日も1度ならず2度3度とビール、ウイスキーから白酒までチャンポンで飲み続ければ、身体が壊れないはずがありません。他の会社は知りませんが、私の会社では病気になる社員が多く、すべて肝硬変や通風です」と、南方肥料会社のLong副社長は語った。

副社長は、「先日も若い社員2人が家庭の都合で精進料理を食べることになったと、営業からの配置換えを要望してきました。私たちには、接待のしすぎで身体を壊したんだと、すぐ分かりますよ」と加えた。

サイゴンのヘルメット業界の関係者は、Tさん(Binh Tan区)の早すぎる死に驚きトラウマになっている。

Tさんは20年間に渡り日々接待営業に励み、今の会社と自社のヘルメットブランドを築き、御殿のような家を建て子供を海外に留学させた。

50歳になった頃、自分に代る接待要員として酒に強い友人を渉外部長に招いた。

代役への引き継ぎが落ち着き、長い有給休暇を褒賞でもらったTさんは、シンガポールに旅行したついでに、大きな病院で健康診断を受けた。10日後、彼は凍りついた表情で帰国し、友人に小さな声で、「深刻な肝臓癌のようだ」と囁いた。

その後、骨と皮になるほどにやせ衰え、頭の髪が全部抜け落ちた彼を見て、ヘルメット業界の関係者の多くは酒のグラスを手にするができなくなった。

往生した日の直前、彼は海外から飛んで帰ってきた息子に向かって、地下室に眠らせている甕酒をすべて叩き壊すよう伝えたという。

■ビールや酒による悪影響

ホーチミン心神病院のHuynh Xuan Thien博士によると、アルコールに関する問題を抱えた緊急治療患者の割合は高く、アルコール中毒、消化器系出血、肝硬変、神経障害の他に、悪寒、自殺、殺人、トラウマ、放火などがあるという。

Thien博士の調査では、アルコールが原因となる交通事故死亡率は少なくとも50%、自殺は67%、自殺者とアルコール中毒者の33%が精神病を患っている。アルコール中毒者の80%には、うつ病の症状が現れ、その20%が3週以内で離脱症候に陥る重度のうつ病になり強制治療が必要だという。

ビールや酒と、癌の関係はどのようなのだろうか？

保健省予防医学局副局長のTruong Dinh Bac博士によれば、アルコールは精神病や肝臓癌を引き起こすと、長らく言われてきた。

しかし、それだけではないようだ。国際がん研究機関は最近、アルコール中のエタノールが、口腔、咽喉、喉頭、食道、大腸直腸、肝臓、および女性の乳がんといった7つのがんの主要原因であることを公表した。

アルコールによるがん発生のメカニズムを、K中央病院がん研究院副院長のTran Thanh Huong博士に聞いたところ、アルコールは体内で発がん性のアセトアルデヒドに変わるという。

アルコールが体内に入ると、アルコール脱水素酵素の作用で酸化し、遺伝子に損傷を与える発がん性のアセトアルデヒドが生成される。これは二日酔いの原因とも言われている。

また、アルコールは唾液中のアセトアルデヒドを増加させ、口腔、咽喉、食道および上気管支細胞のDNAを損傷する。

さらにアルコールは、エストロゲンのレベルを上昇させ、インスリン成長因子の受容体を活性化し、それにより乳腺細胞の増殖を活性化して乳がんを引き起こす。また、アルコールは肝硬変を引き起こし、肝臓細胞を損傷し肝臓癌を引き起こすとされている。

企業戦士にとって酒はビジネスの潤滑油として重要かもしれないが、自分が酒で死んでしまっては身も蓋もない。せつかく築いた社会的地位、人生を謳歌するための健康、そして大切な家族までも失う危険性を孕んでいることを、接待の前に時々思い出すほうが良いかもしれない。

(Nguoi Lao Long 7月16日, P.10)